

# 松野町目黒地区事前復興デザイン

1年2組 高田 莉瑚 1年2組 中川 美羽  
1年2組 長谷 はな 1年4組 末廣 真央  
指導者 窪地 育哉

## 1 課題設定の理由

松野町は愛媛県南予地方に位置する自然豊かな山あいの町である。しかし、過疎化が進んでいる。そのため、災害時に復興に要する時間もおかかると危惧される。平成30年7月豪雨では広見川が氾濫し、多くの浸水被害が出た。南海トラフを震源とする巨大地震のようなケースでは、内陸部にある小さな町であるがゆえに、物資や重機、人手などが入りにくいことが懸念される。場合によっては陸の孤島のような状態に陥ることも想定される。そこで、松野町の復興デザインについて考えることにした。松野町の中でも特に、現在使用されておらず避難施設として活用できそうな松野南小学校のある、目黒地区の事前復興デザインを考えることにした。

## 2 事前復興デザイン制作のための調査

松野町の総人口は3767人で、年少人口・生産年齢人口は減少傾向にあり、老年人口は増加傾向にある。目黒地区は松野町の南西部に位置し、滑床溪谷を源流とする目黒川沿いの集落である。急傾斜の山があり、これまで度々土砂崩れが起こっており、災害リスクの高い場所であると言える。また、目黒地区では水を引いて行う農業、稲作・畑作・果樹園が盛んである。さらに、目黒地区には、廃校になった松野南小学校を含む4つの指定避難所がある。



図1 二つの地形のケース

- ①山→民家→田畑→川
- ②山→田畑→民家→川

## 3 現地の分析結果

現地調査により、田畑のすぐ近くに民家があることが分かったが、私たちはその形が大きく二つに分かれていることに気が付いた。一つは、山沿いに民家があって、田畑を経て川になっているケースである。そしてもう一つは、山のすぐ下に田畑があって、川のそばに民家があるケースである【図1】。この二つの民家は、それぞれに土砂崩れによる災害のリスクと鉄砲水や土石流、川の氾濫といった、目黒川から受ける災害のリスクを持っている。逆に考えると、この二つの民家は、互いのリスクを補填しあっているとも考えられる。補填しあうとはいえ仮住まいや避難所は必要である。目黒地区には4つの指定避難所があるが、特に廃校になった松野南小学校に注目した。この施設は空き教室をうまく活用して、宿泊可能な施設として利用したいと考えている。

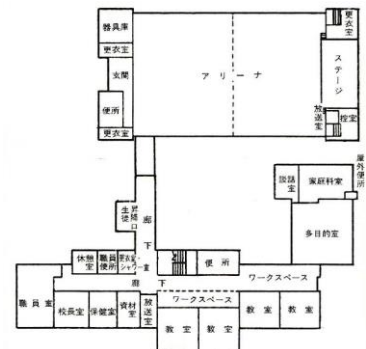


図2 旧松野南小学校校舎(左)と校内配置図(右)

#### 4 事前復興プラン

『山の斜面崩壊などに対しては川べりに住む人が、土石流や鉄砲水などの災害に対しては山際に住む人が、お互いに助け合うことで、復旧復興を迅速にする。また、両方が起こった場合は、松野南小学校を拠点として復旧復興を迅速に行う。』というのが私たちの考える松野町の復興デザインである。しかしもっとも大切なのは「目黒地区に人が住んでいること」という結論に至った。目黒地区に人を呼ぶために私たちが考えたのは、目黒地区の自然を生かした、農業体験や滑床溪谷へのトレッキングツアーなどのイベントである。また、空き家のイノベーションで住宅を確保したり移動販売車を活用したりすることで、iターンで目黒地区に定着してもらおうと考えている。



図3 復興プランの各アイデア

①古民家リノベーション、②③果樹栽培やタケノコほり、④⑤移動販売車の活用、⑥サイクリングロードの整備、⑦巨木を活用したイルミネーション など

#### 5 まとめと今後の課題

目黒地区に人を呼ぶために出したアイデアについては、今後、松野町の役場の方などと相談して、実現可能なものにしていきたいと思う。目黒地区の豊かな自然とともにある暮らしが、より安全に、いつまでも続くよう願っている。

#### 謝辞

本研究を行うにあたって、松野町役場の皆さま、東京大学羽藤英二先生はじめ、防災地理部顧問の皆さまには貴重なご助言を賜りました。また、全国高校生復興デザインコンペに出場させていただき、諸先生方からも大変ありがたい励ましのお言葉を頂きました。この場を借りてお礼申し上げます。

#### 参考文献

・松野町ホームページ <https://www.town.matsuno.ehime>